

行政事業レビューシート (環境省)						
予算事業名	環境試料タイムカプセル化事業		事業開始年度	平成14年度		作成責任者
担当部署	総合環境政策局		担当課室	環境研究技術室		環境研究技術室長 秦 泰之
会計区分	一般会計		上位政策	環境政策の基盤整備		
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	-		関係する計 画、通知等	科学技術基本計画、中央環境審議会答申「環境研究・環境技術開発の推進戦略について」(平成18年3月)		
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度 以内)	現在の技術では計れない化学物質等が計れるようになった場合や、将来環境問題が顕在化し、過去に遡って検証が求められるようになった場合、保存していた当時の環境試料を解析することにより、原因の特定や問題解決に大きく貢献する。 また、絶滅のおそれのある生物種が消滅してしまう前にこれらの生物の細胞・遺伝子を保存し、それらを解析することによって、絶滅の恐れのある生物種の特徴把握等を行う。					
事業概要 (5行程度以 内。別添可)	環境汚染物質の50年、100年単位の長期的トレンドを調べることを目的として、環境試料を長期に保存する。 また、絶滅のおそれのある野生生物等の保護増殖や生物学的研究の基盤として、絶滅危惧生物の細胞・遺伝子の保存を行う。					
実施状況	環境試料の長期保存事業では、土壌、大気粉じん、母乳などの冷凍保存を行っている。また、アホウドリ、タンチョウ、コウノトリ、イタセンパラなどの絶滅危惧生物の細胞・遺伝子の保存を行っている。					
予算の状況 (単位:百万円)		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度要求
	予算額(補正後)	79	80	84	79	79
	執行額	72	80	84		
	執行率	91%	100%	100%		
	総事業費(執行ベース)	72	80	84		
自己点検	支出先・用途の把握水準・状況	実施している業務内容については、業務終了時に業務報告書を提出させ審査を行っている。また、環境試料タイムカプセル化事業検討委員会(年2回)に出席し、事業の報告を受けている。				
	見直しの余地	環境監視のために採取した環境試料等を長期的に保存し、環境汚染物質の50年、100年単位の長期的トレンドを調べるため、今後も継続して実施する必要がある。 また、絶滅のおそれのある生物種が消滅してしまう前にこれらの生物の細胞・遺伝子を保存する必要からも、継続して実施する必要がある。				
化予 算 監 視 の ・ 所 効 見 率	抜本的改善 (契約方式について、経費の支出内容の透明性が高い方法を検討すべき。)					
補 記						

環境省
(84百万円)

【公募・請負】

A. (独)国立環境研究所
(84百万円)
環境試料及び絶滅危惧生物の冷
凍保存及び研究・分析等

資金の流れ
(資金の受け取
り先が何を行っ
ているかについ
て補足する)
(単位:百万円)

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。使途と費目の双方で実情が分かるように記載)

A.(独)国立環境研究所			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	環境試料及び絶滅危惧生物の冷凍保存及び研究・分析等	84			
計		84	計		0
B.			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0